

# エレクtronのための記譜法

B-5



# B-5のための記譜法

(1)レバーの指定	2
(2) balancerの指定	2
(3)レバー・ balancerの記譜法	2
(4) pedal sustainの指定	3
(5)リバーブの指定	3
(6)発想記号	4
(7)上鍵盤・下鍵盤と上段・中段との関係	5
(8)右手・左手と上鍵盤・下鍵盤との関係	5
(9)グリサンドの指定	6

## (1) レバーの指定

トーンレバー

上鍵盤 フルート アラス オーボエ ストリング  
Flute Brass Oboe String

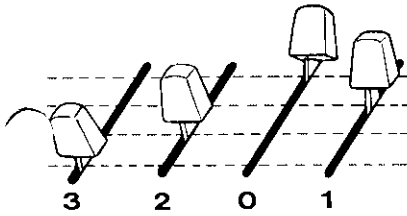
下鍵盤 ウッド ホルン チェロ  
Wood Horn Cello

ペダル鍵盤 バス チューバ  
Bass Tuba

エフェクトレバー

ビブラート マンドリン  
Vibrato Mandolin

以上のレバーの指定は、クリックストップの位置、  
0,1,2,3 で示します。




- 0 はレバーをいちばん奥に押した状態（この状態のトーンレバーは音が出ません。）
- 1 はレバーを1段引いた状態。
- 2 はレバーを2段引いた状態。
- 3 はレバーをいちばん手前まで引いた状態。（このときトーンレバーは音がいちばん強くなり、エフェクトレバーは、その効果が最大になります。）

## (2) バランサーの指定

バランサー (Manual Balance) は、以下のように記入します。

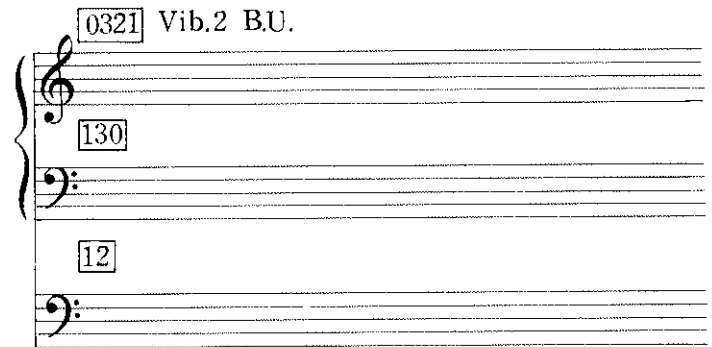
- 上鍵盤の音がいちばん強い位置を、**B.U.**
- 下鍵盤の音がいちばん強い位置を、**B.L.**
- 中央の位置を、**B.N.**

これ以外の位置の指示が必要な場合は、

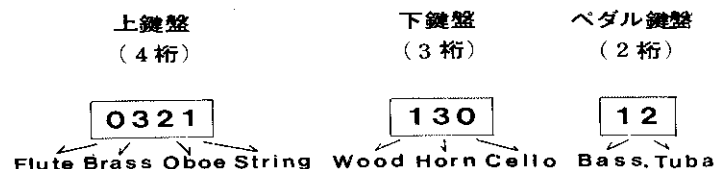
**M.B.**  

 のように記します。

## (3) レバー、バランサーの記譜法

エレクトーンの楽譜は3段に書き、上段には上鍵盤を、中段に下鍵盤を、下段にペダル鍵盤を、それぞれ記入します。

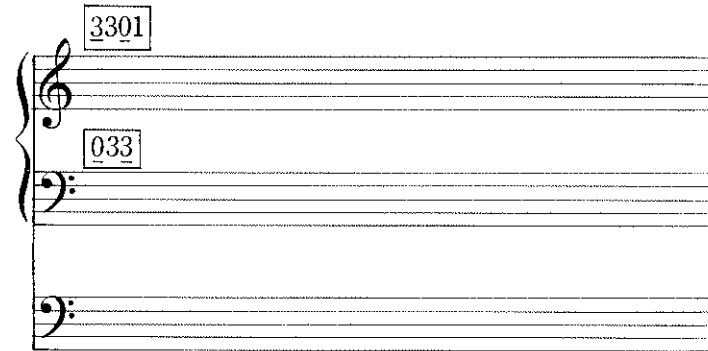


- 上鍵盤のトーンレバーの指定は4桁の数字で上段の上に記入します。つづいてビブラートの指定、バランサーの指定を記入します。
- 下鍵盤のトーンレバーの指定は、3桁の数字で中段の上に記入します。
- ペダル鍵盤のトーンレバーの指定は、2桁の数字で下段の上に記入します。
- トーンレバーを指定する数字の順序と音色との関係は、それぞれ次の通りです。

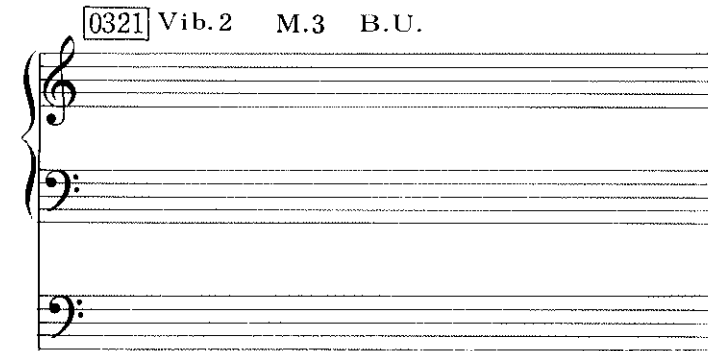


すなわちこれは、B-5のトーンレバーの配置順序と同じです。

- 曲の途中でトーンレバーを変える場合は、はじめの指定と変わるレバーの数字の下へアンダーラインを引きます。



- マンドリン効果を使用するときは、**M.3**のように表示し、これをVib.の次の位置に記入します。この場合、数字はクリックストップの位置をあらわします。



- 曲の途中でマンドリンをOFFにするときは**M.3**のように、マンドリン効果の表示の上に横棒を引きます。

- マンドリン効果の深さを途中で変えたいときは、**M.2**のように、指定した数字を変更します。

- баланサーを途中で変えるときは、**B.L. B.N.**などのように、指定の記号を上段の上に記入します。

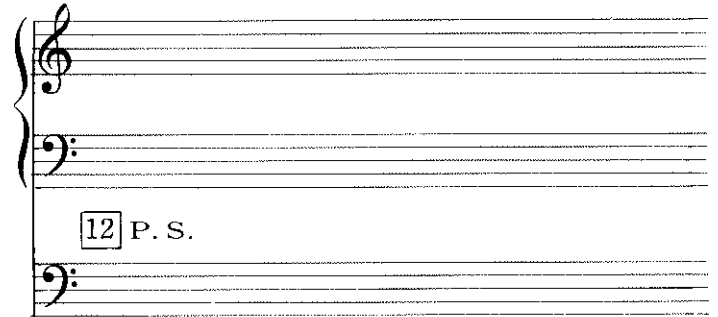
- B.U. B.N. B.L.**以外の位置に変更したいときは、やはり上段の上に**M.B.**

のように指定の位置を記入します。

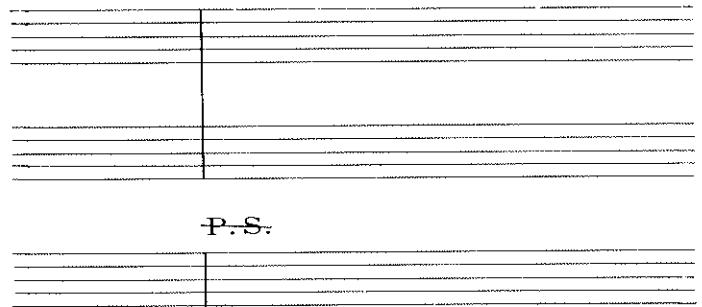
- 曲目の関係で右手または左手を鍵盤からはなすことができる場合で、前の指定から次の指定へと、ゆるやかに баланサーを変える必要があるときには、**B.L.**のように表示します。

#### (4) ペダルサステインの指定

- ペダルサステインを入れるときはペダル鍵盤のトーンレバーを指定する数字の次に、**P.S.**の記号を記入します。

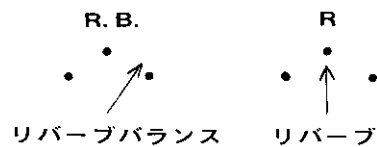


- 切るときは、**P.S.**と記入します。



#### (5) リバーブの指定

リバーブとリバーブバランスは、それぞれ、次のように表示します。



これは上段の上、 баланサー指示の次に記入します。ニーレバーを使ってリバーブをかけるときは、上段と中段の間にR-----で記入し、切る位置は、リバー

アバランスで指示された鍵盤の方向に、R ..... または R ..... のように指定します。リバーブが上下鍵盤に等しく効果をおよぼしているとき、すなわち、

• ↑ • のときは、R ..... で指定します。

0 3 2 1 Vib.2 B.U. R.B. R

● 次の音へ入る瞬間に、今までかけていたリバーブを、一度切つてすぐまたかけなおす場合は、下図のように記入します。

● 全曲を通してリバーブをかけ続ける場合は、リバーブの指定の次に、**all Reverb** と記入します。この場合、ニーレバーを倒しておけば、リバーブレバーの指示通り、リバーブがかかり続けます。また、長い間リバーブをかけ続ける場合は、下図のように記入します。かけ続けたリバーブを切るときは、(R)..... で指示します。

● 次の段まで続ける場合は下図のように記入します。

● 途中で指定を変えるときは、上段の上に R.B. のように、指定しなおします。

● 全曲をとおして、リバーブがOFFになっているとき、すなわち、R ..... のときは、リバーブバランスは、

R.B. ↑ ..... のように中央に書いておきます。

(注) B-3型にはニーレバーがありませんから、リバーブとリバーブバランスの指示だけで、R ..... の記入はしません。

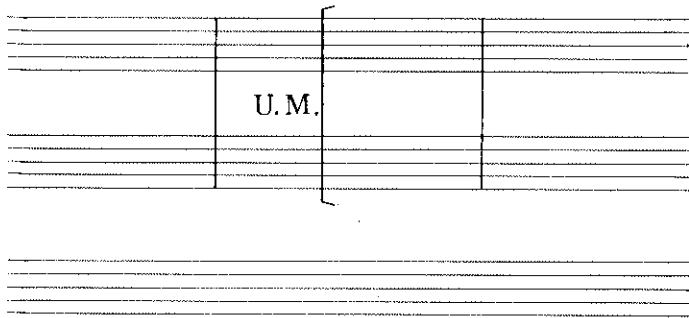
## (6) 発想記号

pp mf dim. <-----> などの発想記号は、中段と下段の間に記入します。

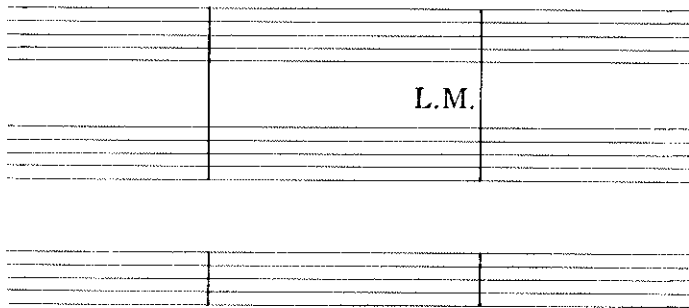
## (7) 上鍵盤・下鍵盤と上段・中段との関係

(3)の項で述べたように、原則として、上鍵盤の音を上段に、下鍵盤の音を中段に記入しますが、演奏法によって変わる場合には、次のように表示します。

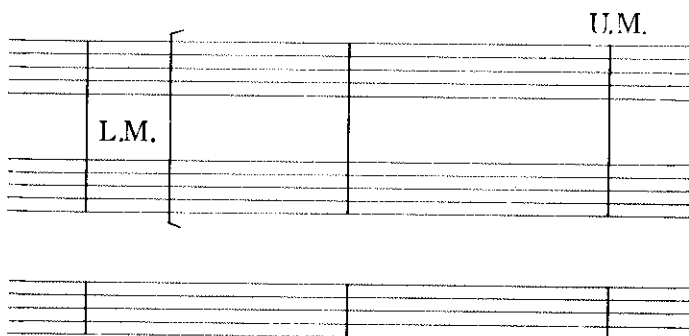
●両手で上鍵盤を弾く場合には、下図のように記入します。



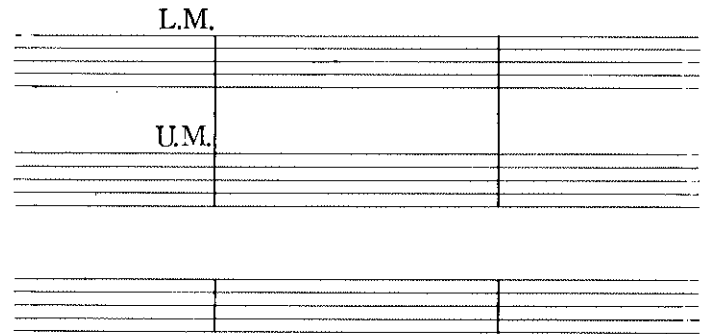
●ふつうの演奏法にもどる場合は、中段に、L.M.と記入します。



●この逆の場合、すなわち、両手で下鍵盤を弾く場合は、下図のように記入します。



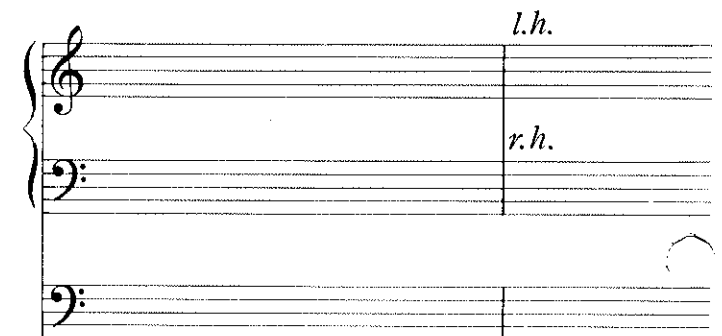
●上鍵盤の音を中段に、下鍵盤の音を上段に記した方が、明らかに音楽的に理解しやすい場合には、次のように表示します。



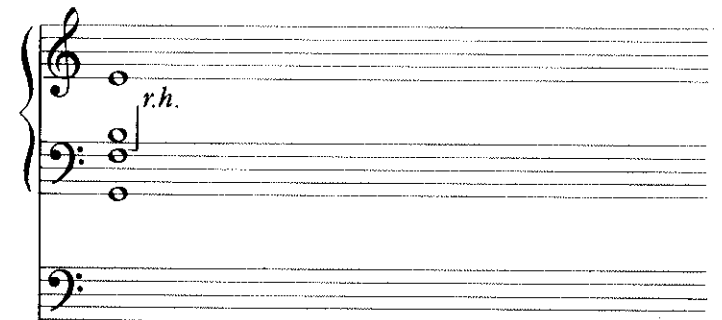
## (8) 右手・左手と上鍵盤・下鍵盤との関係

特に指定がないときは、原則として、上鍵盤を右手で、下鍵盤を左手で演奏しますが、演奏法の都合で変わるときは、次のように表示します。

●上鍵を左手で、下鍵盤を右手で演奏する場合は、下図のように記入します。

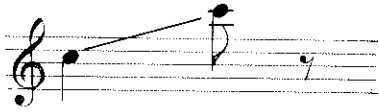


●右手で上鍵盤を弾きながら、部分的に、下鍵盤を同時に弾く場合は、下図のように表示します。



## (9) グリサンドの指定

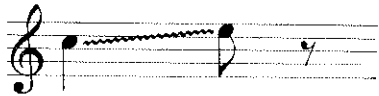
- 白鍵上のグリサンドは直線で指示します。



この場合、音は下図のようになります。



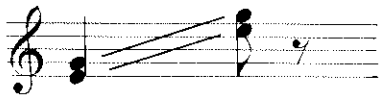
- 黒鍵の音も含むグリサンドは~~~~で指示します。



この場合、音は下図のようになります。



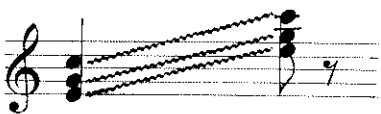
- 2つ以上の音から2つ以上の音へ、掌を使わずに弾くグリサンドは、下図のように直線で指示します。



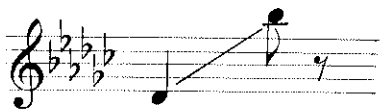
この場合、音は下図のようになります。



- 掌を使って弾くグリサンドは~~~~で指示します。



- 黒鍵のみのグリサンドは直線で指示し、「注・黒鍵のみ」と書き加えます。



この場合、音は下図のようになります。



以上、上昇のグリサンドのみを記しましたが、下降の場合も全く同様です。



日本楽器製造株式会社